

在英雜務書類

134
五 二 十
函 架 冊 類

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-5
	① 260

正院 記録

一 金庫五千磅

右に於てボールス會社破滅おひき有 諸官員其書
生部々重臣多裁判お海世近差向 相借或る左替亦
とのオリヤシタル會社とあつて 大蔵省に名附き以て信用
甚事

信用方々去同少揚り 乃ち此後受取方々多し 因に
理事官より付む右き方々千磅よりあり 乃ち此後
少半と都度と受取甚様ある 其の「理事官」並



昭和中 右修書調子との記号より一書美出とあり
と存故に過重とて多餘の日本或る當地に於て便宜に
却て都合に極置るに於て右記の意を以て此の由を故

ノ

壬午十月十九日

吉田大藏大臣謹識 花押

特命全權大副使

古澤

應由フランスホルト様より製造の棉幣 銘文踐り
とのデボレット十萬フロリンの價と當る 米國政府より
公債證書を法律家より合し日本政府より名

義を以て今日本銀行の發行に於て十萬フ
ロリンの券を一千八百七十二年二月一日より發行
銘文とて此の念世より止むべき

Blank manuscript area with vertical lines.

ハ日立お倫教多塔建一席多岩公口一夥諸名
今府君一德政一俗する処の治下ハ宇内無双一
大都一一々々其光輝観多若其壯大ある小鷲
き之を賞讃せざるハ無一

龍動の曾ソク寶強一処也且其含蓄一処の
知後を併せ之を我邦國一収採する時々東京の
少知も大ニ進歩一他ハ東半越中ニ移り著名ニ
都會堂あり龍動の西洋ニ移る少知他位位以
る事ハる我希聖する有利

我曹ハ使命を奉一一諸国ハ延聘する有故ニ久

公也 差出申候 謹言

特命全權大使正二位 岩倉具視

全 副使從五位 木戸孝元

全 從五位 大久保利通

全 從四位 伊藤博文

全 從四位 山口尚芳

外務尚書アール・ガランウヰル・デービー閣下

岩倉公

木戸公

伊藤公
大久保公
山口公

明治二十二年 九月十一日 外務省

正二位 岩倉具視 閣下

閣下 差出因條 以連名 当月六日ノ附ノ尊輪 係エラ
日本

皇太子ヨリ 我々皇太子宛 閣下等ヨリ 全權使節 トシ 派
遣セラレ、ヲ 係証スル 御重書 津文 恭拝 見候所
相ハ 閣下等 右一重書 原文 捧呈ノリ、其皇太子 御
見 西渡 奉ノ 案 領 義 務 状 状 然ルニ、 也皇太子 下ニ 當今
スコト 下ニ 在、 御 義 務 状 状 然ルニ、 也皇太子 下ニ 當今

官ノ上ハ國下ニ及ビ、口同僚、謁見ニ及ビ、奏、受、
右、時、日、刻、限、等、ハ、也、皇、上、治、定、次、第、謹、テ、以、報、奉、可
海、存、世、先、主、以、為、誓、マ、テ、也、故、以、此、恐、レ、修、白

グラウエル

各理事官

陸、海、
陸、海、

兼、テ、被、任、付、呈、在、事、務、在、御、方、為、也、海、當、年
中、何、レ、モ、恐、少、奉、程、也、朝、マ、テ、海、

但、奉、程、マ、テ、限、上、中、出、次、第、謹、奉、マ、テ、海、
奉、

壬申十月十二日

特命全權使節

為、書、之、通、リ、也、作、出、也、奉、也、海、中、入、也、

壬午十月十二日

事務局

田中 文部大臣殿

長 典 文部中教授殿

近 藤 少助教殿

新 島 七子三太殿

然正館

多程多官系

臨以之面々

業多被仰付置故事務石調方乃市海常年

中何れも現抄業程端

朝上と改張

但し業程が限り中出次多該費が後下

故事

壬午十月十二日

特命全權使節

大文

為書之通し作書条以達中入也

辛酉十月二十

事務局

松本文彦殿

新貨當三月申末當府藩兩地方軍務在稅目
出取調在廿五日數五千の余と勉強其以概果
綱領を以て示し尤も今般以達と致すこと
来十二月申の初

相つ仕業の以て生ずる先年長修兵庫在勤
中名國人の引合ふ事柄に依り彼は法國と
定際裁断法及居間他國係る事務あり
照準し苦情を募りて之を有る勿論以條約
趣旨を基に一口に論理上より其多國係致す

今より龍動府民に厚意を施し、府尹閣下御
我曹誠款待せらるる爰に於て我曹我國民に代りて
其情に厚き心御宴の趣あるを感謝す
今府君に話を賜ふ事、宇田多岐に大郡に
次第其志を觀る者、其大に驚き、之を賞讃せらる
考あり

龍動の長策を實踐せし如き且其含有せる知識と
 を保せし範圍と採用する時と國勢進歩しし東
 東の如きも東洋中とて著名な都會とあり龍動

大正
正
正

右取集々ナレヨナルエゼレシロ英重三百二千磅余
形置多々世々同社破滅ノ及イ目下美文五在長
昌桂當雪本文ニ重高相倍々作付至幸願形日
上

取生靈

大久保副使殿

存孫
副使殿

希書之通願出於心
 願之通以安由上下
 振振後世

能因造初頭 花押

荒書梓偽願出於通差評事余世長子也

六久保利園 花野

倭蘇博文 程輝

一、英重六百四十磅

會社閉店、付損失金額高

肉共重四百餘斤

相借輕高

右ノ義々ジセイ^ニントナレヨナル今社ノ美金六万四千磅内
 公金 五万ポント余 租 五万ポント余 世後同社破滅ノ及目下
 困迫ニ在ル者 控當受テ又ニ金ニ相借ト作付金

壬午十月廿五

造取銀兩為養 左押

大久保副使殿

存
師
刻
傳
殿

太
政
官

前書と通に因て船頭より狀出書りて入出覽也

壬午十月廿七

書記官

預出と拝借重多通相借りて差許し付被る
水達事

大久保利通を拝

借籍博文を拝

拝借重多願書

一 英金千両少磅十六シリリング也

拝借重多

在る重多和銀あり及負國の重銀平質美質長物
文柄ホレヨイントナレヨナル會社と英金千両少磅十七シリ
リング八パン大内 公重ニシテ二千一磅ニ
和重ニシテ四百少磅ニシテ八パン 和置長多及世度目社

破滅と有目下困迫在る為に於當地平文と重多と月
と相借り作付及世度長多和銀被り上

壬午十月廿七

月法大福
佐々木高次郎を拝

大久保副使殿

伊藤 副使殿

前書之函 既出後 爲 奉入 以覽 敬

書記官

預出重言 之 函 八 而 封 反 梓 信 之 差 解 也 之 付 部 爲
之 申 達 也 云 云

大久保利通 印

伊藤 博文 印

別當之通 無部 既 以 松 部 文 亮 預 陸 軍 課 事 官

山田 龍 義 諸 人 小 之 予 預 出 後 爲 奉 入 以 覽 敬 上

十月廿八日

書記官

大久保公

伊藤 公

前書 相 信 既 出 爲 之 申 達 後 相 信 差 解 也 之 付 部 爲
之 申 達 也 云 云

大久保利通 印

太正

修及博文を採

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.)

新金山の兵部理事官は、以て命、海軍事務諸規
則、及、個々の様目人々、と、中、當國、海軍研究、及、在
地、及、業、以、裁、及、居、其、皇、曆、十、二、月、止、と、日、當、中、合
力、及、當、府、下、の、便、宜、と、随、い、ア、メ、リ、カ、ナ、シ、ョ、ナ、ル、バ、ン、ク、に
お、り、及、至、入、國、の、所、に、修、及、及、業、等、と、其、中、付、及、至、及、業、家、
料、今、般、右、バ、ン、ク、概、に、因、座、拂、出、ホ、一、切、及、業、及、業、當、時
及、個、中、の、経、と、と、以、向、及、何、と、及、及、業、及、業、及、業、及、業、及、業、
及、的、及、業、及、業、其、中、必、止、ト、及、及、業、其、以、因、却、千、万、と、余、
當、時、と、及、業、ハ、難、及、業、願、及、業、及、業、及、業、及、業、及、業、及、業、
天、願、及、業、
及、業、及、業、

大出取多々々々差出とるるを候節より諸
 理事官臨時中にも在バンクに破産方と関係し
 向も不少を、今在る大抵官録引當り、以て以て
 報出せられ、此中、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 殊に、其他の諸方にも、多額を、今、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 上、下、納付、様、何、年、格、子、に、由、り、評、以、
 是、文、に、負、数、と、差、出、と、下、後、付、多、年、嘆、願、也、

壬午十月

雲邦 文亮

全権大使書記

以

予等、通松、文亮、不、候、出、由、付、多、年、願、志、以、
 評、安、と、下、後、付、多、年、嘆、願、也、
 以上

明治五年十月

陸軍卿、官、山、田、龍、義

全権大使書記官

以

太正

前書之通致出形万在入正覽也

書記官

前書拝借願出之萬之内八百對面拝借之義許
形万在入正覽也

大久保利通 在押

伊藤博文 在押

出立之通書

和發來九月十八日マルセル出航仕度心得、以中候候之
世為之通中上置也

十月廿日 河部 潜

右之通申出形万在入正覽也

十月廿日 田中大藏理事官

大副使閣下

文書

停筆公

擇借金高

勸農助由良守應 主押

存正副使殿

七
正

由良勘農助より
多分
日
作付

田中 大藏理事官

西副使 閣下

前書に通り申出たる旨を伺也
前書に通り申出たる旨を伺也

大久保利通 右様

伊藤博文 右様

不承候
候

前書

初書より數回赤松使に指揮を以て生徒に學修を命じ
部、通、所、分、可、仕、多、苦、と、在、學、資、質、多、二、千、四、百
磅萬圓用達所、龍、馬、慢、受、亦、在、會、社、破、産、付
右、字、以、具、可、情、而、生、院、一、同、忽、ち、國、難、仕、故、而、何、年
右、字、多、多、和、由、標、暫、後、一、と、作、付、亦、身、解、散、を、右
會、會、社、より、通、り、重、方、之、世、に、通、り、可、仕、多、苦、上
壬午十月廿九日
戸田 三郎 右様

寺島 大藏理事官

中十日也。

寺島大輔 啓使

全權之副使

五

[illegible]

擇信邪書

美雪一百五十年

拜偈 玄之寫

右に書きたれヨナルエゼンニ一店に英金百五十兩貯蓄
あり又世に金店及破滅目下困迫に在り自給當
地中又と多く多拝信と仰付と下度世に奉給せり上
壬午十月廿六日

推少外使之來邦武

大久保副使殿

停謁剏使殿

太正

前書如左の内百部分拝信の差解其旨世無可
中達事

博文

大久保公 拜

伊藤公 拜

拝信 預書

美重百平 勝

拝信 幸々

右大久保多ナレヨナルエシエシ一ハ美重二言半勝 但一和
多也

初メ置置多々 無事 同后破滅と云ふハ 圓下園迫在

世ハ付於當地中又ハ美重言 拝信ハ 作付上り及世無

多程也以上

壬申十月廿九

大原 令々

大久保 副使殿

伊藤 副使殿

大文

大正
九年
十月

為書狀云々内百兩金持借と云々詳見付可
也達事

博文

大久保公 五押

伊藤公 五押

為書之通田中久太郎理事官より預出金受取
為事云々此金持借 其相上取

申十月廿日

書記官

本石公

大久保公

伊藤公

田美岡

為書此金持借多布有定額金受取上納了被取

太政

華盛頓起程之席 印省理事 臨時費用 之 乃
少下重中程 亦多程 及 以 評議 方 區 下 各 有 之 尔
東一酌 之 金 銀 之 以 之 有 候 亦 以 之 何 合 不 任 心 底
和 人 之 勤 一 款 款 之 事 也 少 斯 殘 存 世 後 教 師
雇 入 之 物 多 矣 銀 女 人 待 遇 等 諸 費 固 亦 甚 哉
乃 他 省 理 事 一 人 費 之 由 振 合 之 準 之 莫 貨 三 百 兩
ト 由 下 渡 上 下 渡 在 其 拂 之 多 八 清 算 書 之 以 逐 之
乃 上 系 以 少 兩 面 身 程 也

申十月

田中 文部大臣

全權使節

少休

水

正

日

解剖教師 少庵入 中海 甚々 右学科 必用
書籍 器械 図型 書一通 購求 該名 教師 少中 立致
額 少 中 為 英 貨 書 ポイント 中 渡 中 城 甚 様
あり 中 年 同 甚 上

中十日

田中 文部 大 通

全權 大 副 使

少休

市書 通 相 出 中 条 少 指 揮 中 同 上 致

中十日 中

書 記 官

本戸公

大久保公 各殿下

伊藤公

美園

美園歩系進く事者定額をより上納す

条約

指し用存焉ノ日本公使某君閣下ト普魯士國医学教授某君ノ間ニ次ノ条約ヲ結ヘリ

第一條

何年何月何日某君日本國ニ就海スベシ尋テ東京着ノ上ハ一教授ノ心得ヲ存シ医学校ニ在テ解剖組織学科ヲ教授スベシ

第二條

某君日本行ノ旅費ハ日本政府ヨリ海陸船車一

等ノ代價ヲ給シ且ツ某君未タ獨乙國ヲ去足セ
サル以テ装治料トメ同政府ヨリ墨銀四百圓ヲ
与フベシ

但シ装治料ハ「ホフマン」氏ト同教ノ重高ナル
ベシ

第三条

某君東京府着ノ上ハ日本政府ヨリ毎月ノ初ノ
某君ノ望ミニ隨ヒ洋銀或ハ洋幣ヲ以テ墨銀
三百圓ノ俸金ヲ給スベシ且ツ同政府ヨリ某君
へお當セル洋装ノ一住居ヲ与ユ

但シ婢僕家財及ヒ食料等ハ自費タルベシ

第四条

条約ノ期限ハ某君東京府着ノ日ヨリ算シテ先ツ
三ヶ年タルベシ三ヶ年ノ後日本政府ヨリ尚ホ
某君ノ在任ヲ要スルトキハ期限六ヶ月前改メ
テ示シ及フベシ

第五条

事起アリテ日本政府ヨリ条約ノ期限中某君ノ
任ヲ解カシムルトキハ期限残餘ノ俸金及ヒ歸
旅ノ費用ヲ給スベシ然レモ某君満期ノ後同國

スル片ハ當ニ帰族ノ費用ノミヲ給スベシ

第六条

条約ノ期限内事故アラハ某君ヨリモ解職ヲ請
フヲ得ベシ然レモ解職ノ日ヨリ俸金及ヒ帰
族ノ費用ハ一切日本政府ヨリ給仕セサルベシ
某君条約ニ逆フテ勤務ニ怠リ或ハ自己ノ過失
依シテ言ハ、内閣ノ一機等ニ依アリテ法官士
黨スルノ類モナリ
ノ裁判官位階教頭ノヲ假スヲ件サ、ルトキ
ハ日本政府ヨリ某君ノ職ヲ解カレ、後テ俸金
及ニ帰族ノ費用ヲ給セサルベシ

某君疾病ニ罹リ六ヶ月ヲ踰エテ尚ホ平癒セサ
ルトキハ日本政府ヨリ當ニ帰族ノ費用ノミヲ
給ノ其儀ヲ解クベシ

第七条

日本政府ヨリ所謂隠居料及妻子見舞金等一切
之ヲ給セサルベシ

第八条

其他某君東京着ノ上ハ随分丁寧ニ待遇スベシ
云々ヲ公使某君ヨリ口授シ某君亦必ス忠實ニ
勤仕スベシ云々ヲ給セリ依テ他ニ給スヘキ箇

大正

条ナレ

右条約條據ノ為メ世書ニ通ラ製シ其君公ニ名
印ヲ調シ分ツテ一通ヲ所持スベシ

月 日

皇國教頭某

拝信多謝書

一 英貨二千八百磅

右英貨多シヨイントナレヨナル會社¹²英金千二百七十三磅及四万

フランシク内 公金 一万三千三百三十四磅
私金 七千四百一十二磅 取ケ置キ其金口社破滅

及目下國庫亦在少引控當此本文ノ事多ク拝信ト作付

交付形多ク致上

壬申十月廿九

少議政 西川繁成

中議政 鈴木實之

少議政 少室信夫

太正

少卿官高海戸風

中務及西園迄明

大久保 副使殿

伊藤 副使殿

外書初より内美重十二百兩發祥信之夢解世為
了お達事

大久保 在輝

伊藤 博文

書 信 官

清水 公考

堀 隆 信章

土 肥 百之

平 田 東 助

去々奥國為字々作付五紙其多途申よりふ國
病氣差起り當府ブルリント着仕候席 何分長途
之様以 無業東より止滞在係養否在當席に
より 其多 既々全候に 亦 越々 其 以 亦 命 之 如 也
了 亦 早 少 矣 之 亦 仕 苦 之 座 亦 以 在 奥 國 之 矣 未

太正 散 書

多候にても要る健康に休むも亦ハ程法に於て
 弱質に於て勉強に當る事實に於て病を起し得る日
 月を費し一息を却て大命に恩を背き悲歎を起り
 之程甚しき事多し故に恩命を以て爲る爲る
 上作付し下置る事程に思ふ程に爲る事多し
 其々其々國に文物とも概生軌範に於て彼に因
 害生弊生當國に事り爲る事多し其程に於て
 其程刻苦勉強に於て夫恩命に於て其便あり
 其程に於て其程に於て其程に於て其程に於て
 其程に於て其程に於て其程に於て其程に於て
 其程に於て其程に於て其程に於て其程に於て

此處年款程に於て

理事局

以件

右中出可る事何故

福勢候にても其程に於て其程に於て其程に於て

達候

十月廿九

本戸公
 信長公

太正

三

各課事務官等

佐分利

兼今より作付金出金事務官等
中何より政務事務官等

相子

但し事務官等出金事務官等

事

壬午十月十二

特命全權使節

文

太正

第書之通と仰出た余口達中入也

壬午十月十二

事務局

佐木月法大橋殿

卯田宮内大進殿

岡田権中判事殿

平賀権中判事殿

大原鈴也殿

長野権中判事殿

阿部 啓殿

今村 和郎殿

玉忠少将達也番より返却する事也

文書

太

正

附

書証

一 和 本 西洋易系 諸 國 史 略

一 丁子 風 俗 一

在 友 漢 學 哲 士 ム ル 古 風 禮

一 寫 真 圖 四 景

在 友 ガ ラ フ ロ ッ ク 局 日 附 札

一 順 戸 物

天 文 書

右ノ通リ持越々分々リヨク一ニ云々

存
右ノ通リ持越々分々リヨク一ニ云々

土り一。

太正

書
記
友

寛

一
番
那

右ノ通リ持越々分々リヨク一ニ云々

存

十一月

岩倉 大使

本
大
久
保
公
公

山
口
公
公

文
政

大久保副使殿

大正

但此佛國淨土之席差送甚廣而東者八世矣
擇儒言內外區別了了之事

存正博文

新交諸嶺山あり歩ゆアレキカンドルと因縁と嶺山

學校より深ハトト者トテ
諸所より深書中受修

右ハントと水管とを接続し、水が招け、受、生、動、止、

但添書先々内コーンウォール砂わりバントスピアモアフレ

ビテンスと錫山と社長ヒクスより若杉と岩陽所同造

葉内 少致 見 夕 吳 核 制 一 源 切 上 座 甚 名 極 之 也

國產物市添庄換移狀以呈上藏下茲招供交牙稅

類

壬午十月

大禹鑿山助

大

停養公

卷之四

方廣濟山助

前書之通
新出書
安局
求求
世世
世世

造形頭北向為良

義廟長官會計部より
三上信成氏事

書
紙皮

但價美金六磅

右舟車道中用意器及坐墊乃御買入奉預

此

音

福井 昭三

新編華商會計學

大久保 公

例
蘇
公

五

1

仰佛市本貴月以書面世為中進一依之由若出
書面乃返却置彼他之由、後佛之懷持吸
也

壬申十月四日

大久保大藏卿

伴 孫二郎大將

山岡陸軍少將殿

當直書紙友

福地源一

和義昭年造幣多課を以て大藏省より當國國學
とて之を差紙品より大學校より合密學修業を在
其後之を造幣機關學と稱す本邦亦有之緊要
時務と相考し且和義昭多主料修業修業修業
とて座内當所別、同課派出學、學、學、教人
あり、其後和義昭多主料修業修業修業、
專課より作付多報多報、其多端專、一書、易、付

りゑ、學術に於ては唯今より毫も損益なきを
世より安んずるに在り、不慮の患に遇ふに備へて
大藏省派出員國為學子生監

西曆一千八百六十年九月十二日

山本 退 蔵

大久保大藏卿

閣下

親しく鑑みり、是等事、大藏省に在りて、
一、其事

十月一日

大久保大藏卿

表書に鑑み、相成る事、是より、
世に在りて、大藏省に在りて、
直に、大藏省に在りて、
大藏省に在りて、

費

一 墨銀八百三十三兩四錢

右 唐高祖生少人當年今月分

一 金 五百兩

右 中倉知生當月後六ヶ月分

一 金 壹千五百兩

右 官費生ノ内 花田利嗣 服部 潜藏 兩人 學費
不來ノ付在兩人 四ヶ月分

一 黃金千五百兩

右ハ凡ソ六ヶ月間生儀ノ内帑相若ク政費多當

一 英金一千九百五十兩度十三シリングセペンス

右ハ惣代ヨリ美出シタル負債ノ高

メ 英金三千四百五十兩度十三シリングセペンス

墨子居二千兩十二セント

世英金四百五十兩度六ペンス

然レテ英金三千九百五十兩度十四シリング一ペンス也

外幣書局ニ至ル當國在國ニ書生等ヲ派遣管轄

ハ付テ即今由渡下下夫ニ處ル仕度ヲ精細勘定書

等ハ概若ク本邦大蔵省ニ直ニ美出スル一區海或ハ海切

ホシ愛墨ハ大蔵省ニ控テ信局お着書様ニテ御事

千九百一十年十月廿五

寺島大前啓使 下

全權大副使殿

一、美金三千九百二十磅、面シリング・パンス

不帝寺より大相務使より美金當國在馬、學生より
昂今、お渡、是、振、中、出、一、日、評、議、上、美、金、事、情、
、付、一、つ、お、渡、決、定、法、多、る、日、人、
、右、金、高、の、渡、お、成、
、分、世、長、の、達、中、書、

より、世、々、

特命全權大使

吉田大蔵少輔殿

農事所領之寄付謝礼何

勸農事務所領之寄付吏之尽力之報り此の
有之報り方別書見込に通出之謝礼下度世有年

新書

明治二十一年

手島精一

沖守固

河部 曆

大副使

田中

一 美重百中 礪

拝信 彰高

和義字例 質問より 滞美より 作らるり 居り 常々
レヨナントナレヨナル 會社、所持金子 悉く 右預置 長
世 同社破滅、及 甚以 困迫 在在り 必至ト 疑滞
仕 事より 市文より 金額 控當 地 拝信に 作付 下至
家 偏 甚 難 止 也 以上

工部省七等中位

壬午十月

土山 藤次郎

伊藤副使殿

上田藩次郎工部省所屬の以美園滞在在長
家世に於て至極失百五十勝新出の付以美園
上下を同人より官福もより其家付以美園
美支多々在長

十

伊藤工部大橋

右三通の形出た条の美園在長

十

書 記 長

大久保副使公 在長

伊藤副使公 在長

太正

一 莫重百部廣也

事記

宮内省出仕

勅農助由良守左

右に於宮内省出仕より用ゑられし先般に指図
少中御出仕より書面より重子以下後一より指図
交世より身程也

壬午十一月

以附札葉

書面より重子より書面より重子以下後一より指図
交世より身程也

太正

此等之通商手続

當國より他常用之馬車は出され上
證據中付在之馬車は外馬列一道具も買得
るものあり通商中出され付之證據より出され
廉く守るなり一ツ書より通商より出され

本戸公
外之儀公
候哉公

条約

獨乙國在焉、日本公使某君閣下ト交渉生國某
官某君ノ間ニ次ノ条約ヲ結フ

第一條

何年何月何日某君日本國ニ航スベシ東京着ノ
上ハ日本官員ノ心得ヲ存シ長官ノ命ニ従ヒ教
育ニ関涉セル一切ノ事務ヲ擔當シ其國ニ固有
セル勢態ヲ省ミ物情ニ逆ハスレテ一般ノ開化
ヲ促シ真ニ文明ヲ興隆スヘキ諸學校ノ機關ヲ
整ヘ至當ノ方法ヲ設クベシ

第二章

文部省外國諸教師ノ勤務ヲ監シ其諸關係ヲ調
理スル等長官ノ議ヲ經テ取扱ノ權アリ

第三章

某君ノ地位ハ文部長官ノ下ニアルベシ修テ見
込ノ事件ハ伏藏ナク陳述スルヲ得ルト雖モ
全省會議スル片ハ當ニ参与スルヲ得ノミニメ
決判ノ威權ハ省卿ニ皈スベシ

第四章

某君公務ノ故ヲ以テ他省ト應接セラルヲ得

サル片ハ事件ヲ長官ニ陳述スベシ又省ト自由
ニ交際スルヲ某君ノ得テ能ハサル事件タルベ
シ

第五章

某君日本行ノ旅費ハ日本政府ヨリ海陸船車一
等ノ代價ヲ給シ某君獨乙國ヲ渡セサルハ旅費
治料トレテ同政府ヨリ墨銀四百圓ヲ与フベシ

第六章

某君東京着ノ上ハ日本政府ヨリ毎月初某君ノ
望ニ依ヒ日本金ハ帝幣ヲ以テ六百圓ノ俸金

ヲ給スベシ且ツ同政府ヨリ某君お當ノ洋装ノ
一住居ヲ与ユ

但シ婢僕家財食料ホハ自費タルベシ

第七條

条約ノ期限ハ某君東京着ノ日ヨリ先ツ三ヶ年
タルベシ 西曆三十六箇月ニ異スニ年後モ政府
ヨリ尚ホ某君ノ在職ヲ要スル片ハ期限六ヶ月
弗改メテ示決ニ及フベシ

第八條

事故アリテ日本政府ヨリ条約期限中某君ノ職

ヲ解ク片ハ期限残餘ノ俸金及ヒ飯旅ノ費用ヲ
給スベシ然レモ某君満期ノ後帰國スル片ハ同
政府ヨリ帝ノ帑旅ノ費用ノミヲ与フベシ

第九條

条約ノ期限中事故アラハ某君ヨリ解職ヲ請フ
トヲ得ベシ然レモ解職ノ日ヨリ俸金及ヒ帑旅
ノ費用ハ一切日本政府ヨリ給セサルベシ
某君条約ニ違フテ勅勢ニ怠リ或ハ自己ノ過失
内閣ノ一揆ニ從黨スアリテ法度士ノ裁判其信
信ヲ假スヲ得サ、ル片ハ日本政府ヨリ某君

ノ儀ヲ解シノ儀ヲ俸金及旅費ノ費用ヲ給セサルベシ

某君疾病ヲ罹リ六ヶ月ヲ踰エテ尚ホ平癒セサル
ハハ其進退日本政府ノ指図ニ從フベシ而シテ解
儀セシムルハ日本政府ヨリ帝ニ旅費ノ費用
ノミヲ給シ期限満了ノ俸金ハ与ヘザルベシ

第十條

某君日本ニ在テ其國ノ官員ニ列スト直ニ条約
期限内ハ常駐外國官員ノ暫時休息スルモノト
心得ベシ然テ条約期限ノ満ハ日本政府ヨリ所

謂居料或ハ妻子見継金等一切之ヲ給セザル
ベシ

其他某君東京着ノ上ハ日本政府ヨリ決メ疎忽
ノ待遇ヲ受ケザルヘク云ミヲ公使某ヨリ演説
シ某君モ亦至重ノ事体ヲ認メ必ス忠實勤仕ス
ベシ云ミヲ約セリ右条約証據ノ爲メ世書二通
ヲ製シ某君ミ各ニ名印ヲ調シ分ツテ一通ヲ
所持スベシ

月日

日本公使某君印

地名

太正

獨し國在番日本公使某君閣下ト字露生國某
官某君ノ間ニ次ノ条約ヲ結ベリ

芽一条

何年何月何日某君日本國ニ航スベシ東京着ノ
上ハ文部省ニ從事シ教育規則ノ實際ニ整備ス
ルヲ賛成スベシ

第二条

某君日本行ノ旅費ハ日本政府ヨリ海陸輒車一
等ノ代價ヲ給レ且ツ某君未タ獨ニ國ヲ去セザ

ル前装治料トノ同政府ヨリ墨銀何百圓ヲ与フ
ベシ

第三条

某君東京着ノ上ハ日本政府ヨリ毎月初某君ノ
望ニ隨ヒ日本金或ハ帛幣ヲ以テ何百圓ノ俸金
ヲ給スベシ且同政府ヨリ某君ハ相應セラル洋製
ノ一住居ヲ与フベシ

但シ婢僕家財食料等ハ自費タルベシ

第四条

条約ノ期限ハ某君東京着ノ日ヨリ算シ先ニケ

年タルベシニケ年ノ後日本政府ヨリ尚某君ノ
在職ヲ要スルハハ期限六ヶ月前改メテ示談ニ
及フベシ

第五条

事故アリテ日本政府ヨリ条約期限中某君ノ職
ヲ解カレムルハハ期限残餘ノ俸金及ヒ帰旅ノ
費用ヲ給スベシ然レニ某君満期ノ後帰國スル
ハハ帝ニ帰旅ノ費用ノミヲ与フベシ

第六条

条約ノ期限中事故アラハ某君ヨリモ解職ヲ請

フヲ得ベシ然レニ解職ノ日ヨリ俸金帰旅ノ
費用ハ一切日本政府ヨリ給セザルベシ
某君条約ニ逆フテ勤務ヲ懈タリ或ハ自己ノ過
失アリテ内閣一揆等ニ被法度士ノ裁判其位ヲ
假スヲ許サル片ハ日本政府ヨリ某君ノ職
ヲ解カレノ随テ俸金帰旅ノ費用ヲ給ヒサルベ
シ
某君疾病ニ罹リ六ヶ月ヲ踰ヘテ尚平癒セサル
片ハ其進退日本政府ノ指図ニ随フベシ之ニ解
職セシムル片ハ日本政府ヨリ營ニ帰旅ノ費用

第七條

ノミヲ給シ期限残餘ノ俸金ヲ与ヘザルベシ
日本政府ヨリ所謂隱居料并妻子見継金等一切
之ヲ給セサルベシ

其他某君東京着ノ上ハ随今丁寧ニ待遇アル
ベシ云々ヲ公使某君ヨリ演説シ某君モ亦忠
實ニ勤仕スベシ云々ヲ約ヤリ右条約証據ノ
為メ此書ニ通ヲ製シ某君ハ各々名印ヲ調
レ今ツテ一通ヲ所持スベシ

月日

日本公使某印

地名

李國某官某印

条約

米利堅國在留、日本公使某君閣下ト米利堅國
某君ノ間ニ次ノ条約ヲ結フ

第一條

何年何月何日某君日本國ニ航スベシ東京着ノ
上ハ語學校ニ関涉セル一切ノ事務ヲ擔當シ其
國ノ事情ニ度ラス學術ヲ盛ニスヘキ至當ノ規
則ヲ編制シ決テ御輔ニ取ルベシ

第二條

某君是要ノ職務ハ大小學校ニ於テ試験ノ方法

ヲ調整スルヲ是ナリ

第三條

某君在職ノ際ハ諸學校督務ノ心得ヲ以テ見込
ノ事件ハ伏見ナク文部卿權、陳述スルノ權ア
ルベシ

第四條

某君日本行ノ旅費ハ日本政府ヨリ海陸船車一
等ノ代價ヲ給シ某君米利堅國ヲ發セザル以前
醫治料トシテ日本政府ヨリ墨銀四百圓ヲ与フベ
シ

第五條

某君東京着ノ上ハ日本政府ヨリ毎月初某君ノ
望ミニ從ヒ日本金或ハ帝幣ヲ以テ六百圓ノ俸
金ヲ給スベシ且日本政府ヨリ某君お當ノ洋服、
一住居ヲ与フベシ
但シ婢僕家財食料等ハ自費タルベシ

第六條

条約ノ期限ハ某君東京着ノ日ヨリ先三ヶ年タ
ルヘシ西曆三十六ヶ月ニ等ス三年ノ後ハ政府ヨリ尚某
君ノ在職ヲ要スルハ期限六ヶ月前改メテ示

滞ミ及フベシ

第七條

事故アリテ日本政府ヨリ条約期限中某君ノ職ヲ解クハ期限満餘ノ俸金及ヒ帰旅ノ費用ヲ給スベシ然レモ某君満期ノ後帰國スルハ日本政府ヨリ當ニ帰旅ノ費用ヲノミ与フベシ

第八條

条約ノ期限中事故アラハ某君ヨリ解職シ法フヲ得ヘシ然レモ解職ノ日ヨリ俸金及ヒ帰旅ノ費用ハ一切日本政府ヨリ給セザルベシ

第九條

某君条約ニ逆フテ勤務ニ怠リ或ハ自己ノ過失等アルハ日本政府ヨリ某君ノ職ヲ解シノ隨テ俸金及歸旅ノ費用ヲ給セサルベシ

第十條

某君疾病ニ罹リ六ヶ月ヲ踰エテ尚平癒セサルハ其進退日本政府ノ指圖ニ隨フベシを解職セシムルハ日本政府ヨリ當ニ帰旅ノ費用ノミヲ給シ期限満餘ノ俸金ハ与ヘサルベシ

其他某君東京着ノ上ハ日本政府ヨリ決ノ疎

重成 以 召 納 一 万 七 千 七 百 七 十 七 石

大久保 公

伊 藤 公

書 記 官

今般字宋人少庵入主新多石藤行費其由治料
外市之通以渡之各事秋也

壬申十一月

田中 文部 理 事 官

蒙 人 二 頁

旅 行 費

墨 沼 七 百 五 十 兩 五 錢

裝 治 料

同 四 百 兩 五 錢

米 人 一 頁

藤 行 費

同 五 百 兩

装治科

豊根 四万馬

四所札

書面より重なるが、形が違ふ。此等文部省定額多額
以て返納するものか

大久保 公

俵 公

書形及

文部省審判官田中石三磨

東京両国に移り新学校に監督系教頭可右勅書當
より物より書き寫し換者の上と院より允可其書
廣入り指定及び信調より書し書形白紙及び差
因書

壬午十一月

特命全權使節

岩倉 公

木戸 公

大久保 公

伊藤 公

山田 公

書紙

御傍英日事會計事務之件東洋館より
度子教書御上副頭五ヶニフル両方ジニ子ル
招待之節より付此任種様置ま存此方御為差
支度書付以持紙中書取巻物三頁程に下下
成下書様仕度此方より致取以上

十七日

田中左藉頭光政

大副使公

圖下

大久保 公

伊藤 公 右様

九月 正

山田陸軍官邸より松方公亮事(バンク破滅)付因迫
致し先頃英重百磅大相借預出即ケ山田陸軍少
将佐人の以美重五十四磅大の貸渡(以)安海(以)安重
致(以)又五十四磅大の何分(以)引(以)金(以)中(以)外(以)
調達(以)多(以)重(以)也(以)此(以)由(以)以(以)更(以)五十四磅大(以)持(以)傍(以)
一(以)重(以)也(以)何(以)分(以)中(以)以(以)持(以)傍(以) 幸(以)同(以)上(以)致

中十七日

書記官

大久保 公

伊藤 公

大正

新編令評議也一版之定額、美支、長支、付
難支、通支、

大久保 正解

作並

願之重、高、内

美支二百五十磅

恒因一等書記

同 百磅

何 一等書記

同 五十磅

同 二等書記

右之通、相傳、美支、長支、付、難支、通支、

十、り、十、

大久保 利通

作並 博文

拝借金願書

英金ハ拾磅

田辺孝一様宛

目 四百磅

陸田篤信様宛

目 百五十磅

何 禮文様宛

右ノ如クヨイニトナシヨナル會社事務局長ニ通シテ
御覽事ニ付世友同社及破滅目下國運在在甚
於當地本文ニ重々拝借ニ 作付世友同社事務局長
以上

十月晦。

何 修之

陸田篤信

因已方一

大久保

兩副使公圖下

作並

陸田中務使海軍省及廣入務費其外海軍省より送了
 来同人事形より又ジョイントナショナル會社ト云報置
 事世及同社及破滅中今は同義支店及び以事及同社
 務使及書通社使節より一不務及支店報知紙在
 陸田中務使海軍省及廣入務費其外海軍省より送了
 来同人事形より又ジョイントナショナル會社ト云報置
 事世及同社及破滅中今は同義支店及び以事及同社
 務使及書通社使節より一不務及支店報知紙在
 陸田中務使海軍省及廣入務費其外海軍省より送了
 来同人事形より又ジョイントナショナル會社ト云報置
 事世及同社及破滅中今は同義支店及び以事及同社
 務使及書通社使節より一不務及支店報知紙在

主事十一リナ

作藤

大久保

大久保 忠

侯
祐
公

必帝而綴由利公正より四條書美添寄を思ふ記号に於
 て邦せよと英貨の如く勝つてしるりしくあり第二佛貨
 千両の字にフランクとセンチムとの後下は義輕出た重なり一
 とふ品目人降束中一の供の爲に先頃當國参上
 と御事圖存個徳其の用々々々で渡海と云ふ事
 為る文と云ふ書出し候と申成る由りには渡方輕出
 有る日耳曼姑多國巡歴入用と申す處も如何なる
 上野宛に指揮を向上長

半古

書
所
收

停 莊 公 在 押

因中左務頭達志內澤書也亦係工

去ル十月廿六日附を以て、幕府海軍省より、横濱中ノ
務使令へ、海軍士官雇入ニ関し、當分一々出千七百と
十六兩、度主シリシクエビスおとし、其等今般ナレヨナル
バシタト云々と係り、同ノリ當分、擇四、方義支、其付
同ノ人との右金多、當分、ハ、借渡、お成、長根、中進、至
是とも、今此、以沙、法、多、右、其、此、雇入、控、客、お、送
居、其、付、二、ハ、何所、入、用、と、亦、も、難、能、其、官、早、く、以、後、多
少、年、一、二、三、五、六、七、八、九、十、惟、但、旁、再、左、中、進、其、
十七月、六

寺島大輔務使

金権使席殿

九

正

三

工部省番学生

刺賀起人

三井

板

寺崎

飯塚

園崎

佐々木和太郎

藤倉金次郎

九月月分と

見積り三百兩後

水谷
松岡

右當年中之學費、色々來月より學費本
者より未送來者に付、寺金、大相勢使、大使發給
前、更なる羅敷年中出せられたる部省は、用重不足に付
以て、所中事多様仕度、迄々本府におおりに次第返納
上仕度。

十
七
十
五

仔藤 子部 子燭

大久保大藏卿殿

志輝

山内理事古随以松卯文亮より当地石胸の粗石海
 陸を越え月差入る程帰朝仕る程テハ旅費共々
 中々當分不足之通リ使節を差遣ふ所下の貴族
 出費少何故耳云云云云口持程一々仰上候
 申上り上る

書
紙
包

大久保 公 忠

倅莊公
花料

来月上旬迄、以手當并、旅費中渡、登之也。

一 美多公於此傍

勸農寮必用之書籍也 郭 西貢上より見しもの
通りと後下と兼下度年程上り也

奉 上 日

島 精 一

沖 守 固

乃 副 使

西 中

右 新 組 西 中 可 二 年 下 並 様 年 程 上 り

田 中 大 藏 理 事 官

大副使

法

大久保 公

侯森公

中錦權中判事

冲
之
職
出
仕

野矢外務方記

⑤海多務出仕

原生鏡面中層

右屏 朔延期 移出 出移 理在 右 五名

存藩劉使博文

大久保別使

岩 大佐

木 副使 閣下

山 副使

中 卿 権 中 事

那 右 少 務 大 記

沖 大 藏 出 仕

内 海 外 務 出 仕

生 生 送 大 属

右 卿 當年 中 務 頭 隔 朝 中 渡 步 多 不 調 半 途 付

延 期 預 出 奉 面 三 月 中 歸 矣 美 許 官 右 卿 限 迄

以 自 當 當 人 亦 一 口 渡 置 中 殿 各 隔 途 終 無 只 一 寺 安

大 兩 務 使 亦 托 置 多 各 途 口 限 兩 務 使 館 下 兩 出

特命全權大使

剪刀手

內仲 理事官殿

今般多理年官始既以之而之事務不納當年中
乃亦海瑞朝步樣御沙信之鑑在畏長就之安反

綢緞之事務當年中一卒業修業費什在在綢緞
 業也仰 朝一美江摘錄上中樣育輕長再應市
 輕長我恐懷之至一上座也一也一其為奇歎願其是

年十有

冲
守
固

少副使

江

右形、通、少、局、作、付、様、仕、方、私、外、も、奉、給、也、也

同、日

日本、大藏、院、事務、官

大、副、使

閣、下

形、之、紙、難、男、局、者、之、出、給、之、様、を、以、て、来、以、内、年、三、月、末、
出、滞、英、美、洋、行、其、節、以、之、中、當、之、因、中、理、事、官、不、
要、及、之、中、局、相、様、費、之、全、程、已、為、責、負、之、相、務、使、之、中、出、
給、之、以、同、人、之、中、渡、可、中、事、

書、記、官

吊、相、延、期、之、為、付、去、月、廿、五、日、書、付、を、以、て、形、出、至、故、
之、其、今、以、否、之、沙、汰、等、之、其、節、も、中、上、各、通、呈、報、也、也
明、年、中、以、滞、在、其、節、等、之、其、節、當、持、之、事、事、務、
之、個、中、付、之、中、以、論、勅、吉、等、分、之、中、も、渡、命、付、也、
事、如、来、之、中、其、以、及、入、其、以、及、今、之、中、也、也、也、也、也、
其、以、及、其、以、決、早、之、中、沙、汰、之、中、也、也、也、也、也、也、也、

十、二、日、十、二、

内、海、忠、勝

野、村、精

特、命、全、權、使、節、閣、下

朝之難守而世之出格之偉者多矣
 未也 沛莫美乎 其其帝也 其其當之 四年
 事官より 夢るより 其其朝 其其費 其其程 其其
 寺も 其其務 使 其其出 其其人 其其可 其其

山石倉公

木戶公

大久保公

伊
莊
公

山江公

同書良藏

右主英國歸留莊在步雲坊度日以掌園之出張

以爲此系世所罕見

主事 十七日

田中 文部理事官

特命全權使節

返件

[illegible]

壬午八月廿六

禍官師生

平

壬午四月廿二

龙院

正院

河

書局之經以特命全權大使、可也。此後、各條修地、
之授与、可受指揮、
印事

大正

明治五年壬申七月
文部中教授入江文部
英園駐在
木戸参議殿閣下

明治五年壬申七月
文部中教授入江文部
英園駐在
木戸参議殿閣下

木戸参議殿閣下

英園駐在

明治五年壬申七月

文部中教授入江文部

英園駐在

行

X=

列傳

江江美也 妙者上

作渡數年限在不止

何付步樣牙輕故但遇有因年文都大亞以中出

其元可受其世上世安身願也

明治五年壬午七月

文部省教授入江文郎

英園駐在 木戸泰之 鐵廠 閣下

賞

松島

去以西曆九月廿一日當他出足之御中御機中出奉
其使席中一政少以滞在御中當他之格多篤方所納
其波多級伯之上以安海之志來其多今般理事官
其隨以一月當年中及御中極端
其作付其方在與長其之同人其多其日教之見以
其之其格人仕其事其付其分其也當年中其多其
其之其格人仕其事其付其分其也當年中其多其

佐々木富行

中

水濱書事

特命全權大使

逢君延期车轻名世事

取生雷吉

串下り香

存莊工部少卿

出馬月市後可中事

全權大使了以預沙回曆中為用費美多三金少
 勝以受名了由成苦付 拙生 在英中 貴方會計
 由合辦次貴海方了為用意いふ 多金了方由書
 而了教海集在英中

主事了り了

吉田大藏少將

法成在解

大久保大藏卿殿

伴莊正部大捕殿

一美金三萬磅之

右使節より西沙回艦中費用今後可法に
見積るゝと云ふ事ある中會計部及び
次等財部と海軍省と様々費用之有る事を見
此事は情義起帰報及延引有る金多しと云ふ
是れハ英國の金多しと云ふ及書通事等
の合算より下也

申十月十日

伴藤五郎大藏

大久保大藏卿

吉田大蔵少輔殿

此葉重役南家

新我當年中帰朝之旨方以達以望貴家及他諸達
付延期身既交其事

申十五日午

馬部省決通中府
所生 雲吉

侍藏子部大藏殿

取之紙難少由是之少格之修を以て来ル酉年三月
未迄降美美降其其席止し以て當方田中理事官
より受取可中且帰朝修美之条ハ寺事の大務修候ト
申出之可同人より申渡可中事

書
紀
友

新製並多々作付品は諸製造所個々異母程中致し
 所出覽表は其右に於て授けられ製造所も多少致
 幸右製造場迄長らく添書ヲ得付来るに十否當所
 出立ノツテル^{ハム}を初メ「ダバー、マクレスフィールド、リーグ」その他
 マンチヌタルにも市銀を所製造場より取り實際に付詳細
 多能に解釋し、廉價問仕を存せ且又其り所取用出覽
 表添書の上を佛國にも市銀因國製造場より一覽仕を
 多能に取付て所出取りし給費大凡見積り以て英貨
 五千磅以上の差渡し、市銀を様仕を向仕拂ひ、其に追ふ

以法集考細中上長權了仁長依之世為身候也

壬午十一月

野口 富彦

伊藤 副使

閣下

親之紙着由長當年中よりお仕舞うるに主積り
以之會計知りし旅費より受取事

大久保 公

伊藤 公

手高精一内膳に免所相旅費の清方願

手高 精一

和名内膳精一上膳入事より西沙内へ歸り
和名内膳 相旅費の清方願に免所相旅費の清方願
成事より會計知りし旅費より受取事

壬午十一月

沖 守國

大副 使

西村

作
莊
公

手為精一

同人等自費可以米國爲學子所在其家 知者 爲通商
雇入少用 亦無不在其家 今般少少姑之額も之
之付當年中 所雇少免之 仍付其之付を 世上自費
留學之目的多之 而後已 歸和休養方 輕少其件
核計 之出 證紙可以 歸朝 旅費以後 之 之 之 之
輕少 以上

壬午十月

冲字图

少刻佳

右新之紙以作可多者持和寺新也

田中 万壽願

新之紙系面步移費之多少今計銀三リト受
ルヲ

利通 印

新之紙系面步移費之多少今計銀三リト受

利通 印

申上り

書 信 安

大 公

候 公 印

預 之 函

一 美貨 五十セント

右 美貨 諸君 中 諸君 教 育 者 廣 々 接 接 社
分 自 由 下 諸 君 教 育 者 廣 々 接 接 社
中 諸 君 教 育 者 廣 々 接 接 社

去年十一月

岩見澄造

由利公正

万副候

山

一 差貸 万々千ホト

右主今般帰 園 佐 貴 付 返 納 万 佐 万 交 事 子 各 占
中 候 付 実 地 少 額 衆 上 様 信 付 作 付 寄 母 衆 在

新 姓

壬申十月

山石見 修造

由利 公正

大 副 使

以 中

御駕之馬 六足

但 四足替 二足用意

代價 凡 六千兩

右之儀宮内口用 同省之仕由良守迄 中付御達
乃渡此 替 重々 於當地 取替 以後
歩指跡 迄 宮内省 定額 至 江 迄 納 うち
仍 多 此 件

奉 上り 上 南。

本 戸

西 様

吉 田 完

右支新定勅農事務所備付方力之額、該所付方之

十七石一斗、備仕、存世、石存く事多し。後、あつ

形樣本輕款以旁為偏上下板之生軀多什製以達

夢彩雲已上

幸甚

冲
守固

巧郭悟

萬書之紙比許字牙輕快

田中 大藏 理事 官

全權使節

以中

由利公正由良守左之先例も有る事方西洋客に往來親友

書 紙 友

親之級義廟を多子に多ハ田中戸籍頭より一信

事

幸十上り中

特命全權使節

ジョイントナショナルズゼンシー、新々金、路末、山渡佛

前結局、到業、付、抄者、滞、美、中、土、四、二、部、申

付、便、官、要、豊、一、う、後、方、以、中、親、領、兼、仕、故、知、其、當、因

之、法、律、に、因、る、所、ハ、債、主、悉、く、領、印、に、上、*Power of*

attorney、に、権、を、名、代、人、と、する、もの、に、以、附、托、寄、る、事、を

所、以、と、り、差、支、多、事、情、も、う、る、に、う、る、に、存、一、故、知、る

以、朝、法、律、家、ハ、ッ、チ、ン、ス、ト、示、終、い、る、一、右、委、托、之、書、面

に、お、お、以、タ、此、に、以、旅、寓、に、差、出、す、中、に、有、明、後、日、曜、日

債、主、都、々、以、呼、寄、問、中、に、以、後、更、々、世、故、に、う、近、り、る、事

外務省

岩倉公

木戸公

大久保公

伊藤公

山口公

七十二年十二月十日

大使

余謹テ閣下ノ此皇宮ニ來着スルヲ賀シ且余
 女皇陛下ノ宮内卿タル職掌ヲ以テ閣下ニ告ク
 ル其地位階級ハ佛國ノ全權大使コウントベルナルド
 レタル四名ノ特例全權副使ノ一ヲ説明セン右
 ノ四名ハ女皇陛下ノ皇宮ニ於テ各國使臣連
 席ノ地位ハ特命全權大臣務使ト同級ニシテ
 ハサクヘダ格和同ノ特命全權大臣務使セノール

ドングリコールドビウチスノ次座タルベシ

余カ職掌ニ於テ閣下及ヒ四名ノ副使女皇陛下
下ノ下ニ歸存中一々何様ノ扶助ヲ乞ハルハトモ
余、於テ欣然之ヲ承諾スベシ冀クハ閣下能ク
余ノ願意ヲ達セシメヨ

女皇陛下ノ宮内卿

正二位具親岩倉閣下